

広島県農業会議だより

がんばる農ひろしま



小麦の刈り取り風景（世羅町田打）



- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 全国農業委員会会長大会 23.5.26 …… 2 | 8 春の叙勲（小丸さん） …… 6 |
| 2 平成23年度農業雇用改善事業の紹介 …… 3 | 9 耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業入賞 （株）元気丸 …… 7 |
| 3 「農の雇用事業」取組状況 …… 3 | 10 新任職員紹介 …… 7 |
| 4 平成23年度行事予定 …… 4 | 11 広島県立農業技術大学校からのお知らせ …… 7 |
| 5 生産者の取り組み（株）亀田農園 …… 5 | 12 図書紹介 …… 8 |
| 6 女性農業委員リレー（梶田さん） …… 5 | 13 編集後記 …… 8 |
| 7 農業者組織の紹介 （県農業法人協会と県農業経営者クラブ） …… 6 | |

広島県農業会議

広島市中区大手町4丁目2番16号
TEL 082-545-4146 FAX 082-246-1825

広島県農業会議

検索

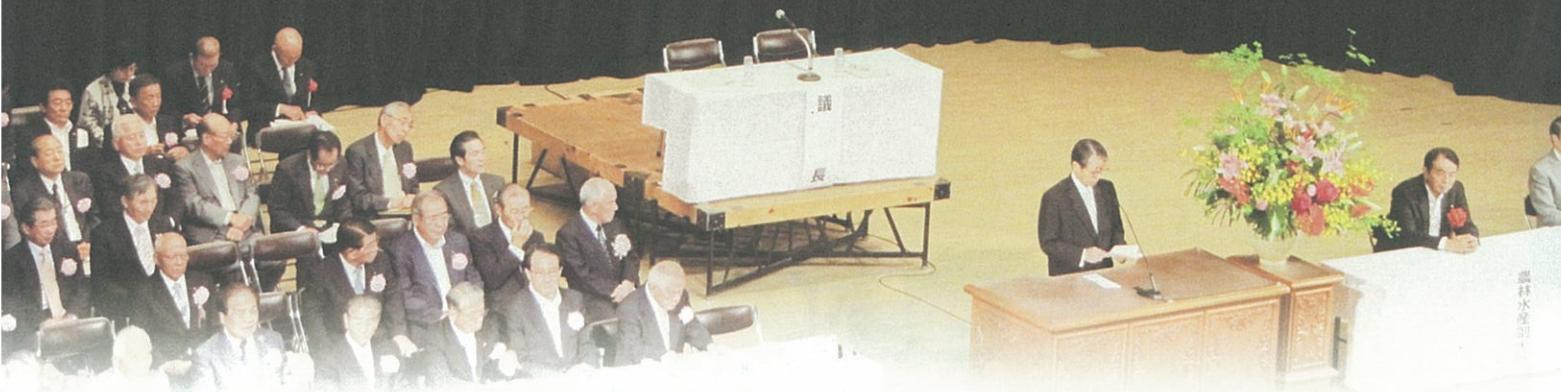
<http://h-kaigi.jp/>

平成23年度 全国農業委員会会長大会

＝東日本大震災の復興と農業・農村の再生に向けて＝

- 大震災の復旧・復興に農業者の底力で立ち向かおう
- 原発事故の早急な収束・補償と万全な安全対策を実現しよう
- TPP交渉参加を撤回し国境措置を堅持しよう
- 農地制度の適正な執行と審議の透明性を確保しよう
- 農地バトロールで遊休農地対策を徹底しよう
- 農業のパートナーづくりを進め担い手の確保・育成に取り組もう
- 第21回統一選挙を契機に農業委員会の体制と活動を強化しよう
- 農業者年金の加入推進の取り組みを強化しよう

「と担い手を守り活かす運動」
を強力に進めよう



全国農業会議所 太田会長の主催者あいさつ

1 全国農業委員会会長大会

5月26日、東京都日比谷公会堂において、平成23年度全国農業委員会会長大会が開催され、本県から13市町の農業委員会等から19名が参加しました。

同大会では、①東日本大震災からの農地及び農業経営の復旧対策、原子力発電所関連被害への対応と原発立地地域における安全対策の強化、及び未来に希望と誇りの持てる復興計画の策定等を求める「東日本大震災からの農業復興に向けた特別要請決議」、②地震と原発事故により、一次産業だけでなく全ての産業が著しい損傷を受けており、TPPを巡る論議はあり得ず、納得できるものではないとして「TPP交渉への参加撤回を求める緊急要請決議」及び③復興と再生に向けた基本的な考え方として、震災・原発からの復興にあたっては、何よりも被災された農業者と地域本意の計画を樹立・実行すること、食と農林漁業の再生については、農林漁業の再生を国家戦略に位置づけること等を、また、再生に向けた政策の再構築として、担い手の明確化、農地対策と担い手経営対策等を内容とする「食と農林漁業の復興・再生に向けた政策提案決議」などの議案が採択され

ました。

大会終了後には、大会決議内容の実現に向けた要請活動として、全国農業会議所が中心となった政府・政党に対する要請活動と各都道府県からの大会参加者はそれぞれの地域選出の国会議員に対し、要請活動を行いました。

大会翌日の27日には、千葉県袖ヶ浦市農業委員会を訪れ、耕作放棄地再生活動について研修を受けました。

袖ヶ浦市では、市長を中心に農業関係団体・担い手



袖ヶ浦市農業委員会の説明を受ける研修参加者

農家等11名で、耕作放棄地の解消、担い手の支援を目的に「袖ヶ浦市農業推進協議会」を平成20年に設置され、各種支援対策事業の審査の一部を行い、市内の11の農地・水・環境保全向上対策支援協議会が耕作放棄地の解消及び農地の環境保全に努められています。

この協議会の手の届かない耕作放棄地について、

農業委員の発案で「農業委員会耕作放棄地対策部会」が全員一致で設置され、再生活動を行い、耕作放棄地の解消・防止を呼びかける活動をされています。

収穫祭に園児を招いて、園児の喜ぶ笑顔を見ると嬉しくなって、委員の任期の3年間は続けたいと話された部会長さんの言葉が印象に残りました。

2 平成23年度農業雇用改善推進事業の紹介

農業会議では、新規就農者の増加と定着を図り農業経営を発展させることを目的に、農業法人等に対する雇用や労務管理に関する助言指導を行っています。6月2日に、県、労働局・ハローワーク、社会保険労務士等で構成する連絡会議を開催し、本年度の事業計画を協議しました。就農希望者、受入側の農業法人のご期待に応えるべく説明会・研修会など具体的な事業活動に取り組みます。是非、参加してみてください。

農業法人等に対する指導・相談

農業法人等に対する指導相談窓口を設置し、社会保険労務士との連携により、面談・電話・メール等

で日常的に対応しています。

巡回説明会の開催（県内3ヶ所）

県内3会場にて、本事業・農業雇用を巡る状況などに関する説明会を開催します。

農業法人等に対する研修会の開催（3回）

農業法人等を対象に、雇用・就業問題の改善と人材の確保・育成をテーマについて研修会を開催します。

モデル相談活動の実施（2法人）

雇用環境整備に係る具体的な課題を持つ農業法人等に対し、実際に社会保険労務士と一緒に訪問し、個別相談に応じます。



〔事業の推進体制（スキーム図）〕

3 「農の雇用事業」取組状況

農業会議では、全国農業会議所の委託を受け、農業法人等が新たに農業に従事する人や将来独立就農したい人を正規の従業員に雇用して行うOJT（職場研修）を支援する「農業法人等就農実践研修支援活動」メインにした「農の雇用事業」を推進しています。

この「農の雇用事業」は平成20年度補正予算で事業化され、雇用経営体に対し、主にOJT教育研修助

成金が、研修生1人当たり月額97千円助成される事業です。これまで20年度事業1回、21年度事業2回、22年度事業2回、計5回の募集が行われ、のべ73経営体のべ97人の従業員が県内各地の農場で、農業に関するOJT研修を行っています。

平成23年度予算では、13経営体20人の応募がありました。

「農の雇用事業」の実施状況

平成23年7月現在

| | | 研修生 (人) | 法人 | 研修生 (人) | 備考 |
|--------|--------|---------|-------|---------|------|
| 20補正 | 全国枠 | 1,000 | 1,057 | 1,226 | 研修終了 |
| 研修開始 | 21年4月 | 広島県 | 28 | 33 | 開始時数 |
| 研修終了 | 22年3月 | | 16 | 20 | 終了時数 |
| 21・1補正 | 全国枠 | 2,000 | 1,180 | 1,835 | 研修終了 |
| 研修開始 | 21年8月 | 広島県 | 17 | 25 | 開始時数 |
| 研修終了 | 22年7月 | | 14 | 15 | 終了時数 |
| 21・2補正 | 全国枠 | 500 | 534 | 536 | 研修終了 |
| 研修開始 | 22年1月 | 広島県 | 6 | 6 | 開始時数 |
| 研修終了 | 22年12月 | | 4 | 4 | 終了時数 |
| 22予算 | 全国枠 | 1,400 | 1,060 | 1,456 | 研修中 |
| 研修開始 | 22年8月 | 広島県 | 14 | 19 | 開始時数 |
| 研修終了 | 23年7月 | | 14 | 16 | — |
| 22・2追加 | 全国枠 | 500 | 611 | 800 | 研修中 |
| 研修開始 | 22年12月 | 広島県 | 8 | 14 | 開始時数 |
| 研修終了 | 23年11月 | | 8 | 13 | — |
| 23予算 | 応募状況 | 広島県 | 13 | 20 | — |



4

平成23年度 広島県農業会議の行事予定

| | | |
|-----------|----------|----------------------|
| 7月15日 | 広島市 | 農業委員会会長・事務局長会議 |
| 7月23日 | 広島市 | 農業技術検定試験 |
| 7月25日～27日 | 県内 | 22年度「農の雇用事業」現地確認 |
| 8月2日 | 世羅町 | 農業雇用改善推進事業説明会・第1回研修会 |
| 8月4日 | 三次市 | |
| 8月9日 | 北広島町 | |
| 8月12日 | 広島市 | 広島県農業会議第92回総会 |
| 8月29日 | 広島市 | 新任農業委員研修会 |
| 8月下旬 | 広島市 | 「農の雇用事業」説明会・研修会 |
| 9月2日 | 広島市 | 広島県女性農業委員の会総会 |
| 9月上旬 | 県内 | 23年度「農の雇用事業現地確認」 |
| 9月～10月 | 県下3会場 | 集落法人設立支援セミナー |
| 10月下旬 | 県内 | 農業雇用改善推進事業研修会（第2回） |
| 10月下旬 | 県下3会場 | 農業委員等研修会 |
| 11月上旬 | 県内 | 22・23年度「農の雇用事業」現地確認 |
| 11月上旬 | 県内 | 農業雇用改善推進事業研修会（第3回） |
| 11月下旬 | 広島市 | 農業委員会職員課題研修（2日間） |
| 12月7日 | 東京都・砂防会館 | 全国農業委員会会長代表者集会 |
| 12月17日 | 広島市 | 農業技術検定試験 |
| 2月下旬 | 県下3会場 | 農業委員等研修会 |
| 3月上旬 | 県内 | 23年度「農の雇用事業」現地確認 |
| 3月下旬 | 広島市 | 広島県農業会議第93回総会 |

5 生産者の取り組み

豊田郡大崎上島町でトマトとミカンの複合経営を行う亀田農園(株)(代表取締役 亀田英壮)では、「亀ちゃんトマト」「亀ちゃんみかん」のブランド名で広島県内を中心に販売し、味にこだわった商品づくりが消費者から好評を得ています。

社長の英壮さん(38歳)は、東京農大を卒業後、東京都内の青果市場へ就職され、11年前に帰郷し父文男さん(63歳)や家族と共に、75aのハウス(33棟)で年間200トンの桃太郎トマトと、4.5haのみかん畑で120トンの温州みかんを生産しています。

若い農業者を育成し、農業で地域を元気にするという目標に向け、年々規模を拡大してきました。

今では20歳代の3人の社員のほか、繁忙期には9人のパートを雇用するまでに成長した亀田農園を昨年10月に集落と連携した特定農業法人として法人化しました。

1月から7月まで収穫が続くハウストマトは、



代表の亀田英壮さん(右端)と家族のみなさん

土作りをはじめ生産管理を徹底することで、糖度8度以上の高糖度でコクの深い味わいのトマトが全収量の40%を越え、自信を持って独自ブランド名で毎日200ケースのトマトが出荷されています。

人材育成が企業発展の要と位置づけ、同社の社員3人には、農業者として自立できる幅広い知識を習得するための総合的な研修を受けさせています。

亀田農園(株)は良質の農産物を消費者に提供し、儲かる農業を実践することで地域と共存できる経営を目指しています。



甘くコクのある自慢の亀ちゃんトマト

6 女性農業委員リレー

福山市農業委員会 梶田 富美子さん



東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。

また、被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

私は、福山市の西部、松永本郷で柿と野菜作りをしています。柿作りは主人、野菜作りと販売は私と決め頑張っております。

議会推薦で農業委員となりましたが、何も知らなくて戸惑うことばかりでした。

農業委員研修会や女性農業委員の会の研修への参加、現地での経験、地区委員さんや、事務局の方々からの協力やアドバイスをいただき、どうにか委員として活動をしています。

福山市の、女性農業委員は二人です。女性委員として何か出来るか、まだ見い出せずにいます

が、「女性農業委員を増やそう」と県女性農業委員の会の取り組みへ各市町の協力もあって第21回統一選挙では、新人女性委員が増えると思います。昨年12月神石高原町の5名の女性委員誕生と、仲間が増え心強く思っています。女性のパワーで何かが出来るとワクワクしています。

最近、田植え、稲刈りに若い人、子供の姿を目にすることが少なくなり老夫婦だけでしているのです。私も20年前、米を作付けしていました。(現在は柿畑になっています。)

田植え・稲刈りは、祭りのように、にぎやかでした。若い人が田に入らない理由はいろいろでしょう。でも、一年中いただくお米です。田植え、稲刈りの二大イベントは家族でにぎにぎしく楽しんでほしいと思うこの頃です。

7 農業者組織の紹介

県農業法人協会及び県農業経営者クラブは、6月3日、広島市中区東白島町にあるKKRホテル広島において、同組織会員をはじめ県観光農業経営者協議会など農業経営者の資質向上を目的に「広島県農業経営者組織会員研修会」を開催しました。

講師に石川県で経営の多角化を推進している(株)ぶった農産の佛田利弘代表取締役社長に「日本農業がめざすべき共通価値経営」と題して講演会を行いました。

はじめに、農業経営は、何によって成り立っているかを考える中で、まず地域にある経営資源とは何か

を考え、「ひと・もの・かね・情報・とち・知識」が挙げられました。

まず、ひと=人材、もの=原料、かね=資金、情報=動き、とち=地域、知識=知恵、全てが揃ってこそ農業経営ではないかと佛田さんは参加者に問題提起をしました。

また、佛田さんは「食と農林漁業の再生実現会議」の構成メンバーであり、最新の中央情勢も報告がありました。

出席した農業経営者からは、「多角化に向けて参考になった」などと声が上がっていました。



農業経営者を対象にした研修会
講師は(株)ぶった農産の佛田利弘氏



8 春の叙勲

元安芸高田市農業委員会 会長 こまる 小丸 あきよし 明義さん



平成23年春の叙勲で、元安芸高田市農業委員会会長の小丸明義さんが「旭日単光章」を受賞されました。

小丸さんは、農地法に基づく公正・公平な審議を通じて優良農地を守るとともに、将来に向けて展望が開ける「元気な農業・農村」を実現するため土地改良事業の導入に力を注がれるなど、永年の農業委員・土地改良区役員としての功績が評価されました。

おめでとうございます。

農業委員 20年1カ月 (高宮町13年7カ月 安芸高田市6年6カ月)
農業委員会会長 13年3カ月 (高宮町10年3カ月 安芸高田市3年0カ月)
広島県農業会議常任会議員 3年 0カ月





9 耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業入賞（株）元気丸

食料自給率の向上をめざす農業委員会系統組織の運動である「新・農地と担い手を守り活かす運動」推進の一環として、耕作放棄地の発生防止・解消活動の取り組みや成果が他の範となる団体等を表彰する「第3回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業」において、尾道市御調町の（株）元気丸（代表取締役 上田龍男）が全国農業新聞賞を受賞されました。

建設業から農業参入した同社は、耕作放棄地の増加に苦慮していた御調町山岡地区農用地利用改善組

合と協定を締結し、集落法人として地元住民と団結した、耕作放棄地の解消と有効利用に取り組んだ活動が評価されました。

山岡地区の3.8haを含め10.4haの耕作放棄地に、ジャンボニンニクなどの野菜を栽培しています。ジャンボニンニクを使用した焼き肉のタレなどは、地域特産品として人気があります。



自慢のジャンボニンニクを収穫する上田龍男代表（昨年の収穫風景）



荒れた農地がみごとなニンニク畑に復元された山岡地区の風景



10 新任職員紹介



森川 敏博

平成23年4月から農業会議でお世話になっております森川です。

担当業務は、調査事業（農地等（田畑）売買価格調査、農業労働事情調査等）、農業雇用改善推進事業、「広島県女性農業委員の会」の事務局担当などです。できるだけお役に立てるよう努力をしております。ご指導・ご協力を宜しく申し上げます。



11 広島県立農業技術大学校からのお知らせ

広島県立農業技術大学校では、平成24年度学生を募集中！

学科は、園芸課程（野菜・花きコース、落葉果樹コースの2コース）、畜産課程（肉用牛コースの1コース）があり、定員は40名で修業年限は2年。

入学資格は、将来農業に従事しようとする者、及び農業・農村の担い手を目指す者で、高卒または、同等以上の学力のある者。

詳しくは、広島県立農業技術大学校 教務課まで。

〒727-0003 広島県庄原市是松町55-1

TEL 0824-72-0094

FAX 0824-72-6749

MAIL ngdkyoumu@pref.hiroshima.lg.jp



図書紹介

(農業委員ためのテキストシリーズ1) 農業委員会制度のあらまし



農業委員系統組織の歩み、農業委員会の設置、構成、業務、運営をわかりやすく解説。

図書コード 22-43
定 価 200円

(農業委員ためのテキストシリーズ2) 農地制度のあらまし



日本の農地制度と農業委員会の業務内容の概要を①農地法、②基盤強化法、③農振法を中心に紹介。

図書コード 22-44
定 価 200円

(農業委員ためのテキストシリーズ3) 農地の効率的な利用



農地の権利移動に関する制度、農地法に基づく農地の権利移動、農用地利用集積計画による農地の権利移動、農業生産法人制度などを解説。

図書コード 22-45
定 価 300円

(農業委員ためのテキストシリーズ4) 優良農地の確保



農地転用許可制度、農業振興地域制度、その他、農地に関する法律等に基づく主な農業委員会業務を解説。

図書コード 22-46
定 価 200円

お申し込みは広島県農業会議まで
TEL : 082-545-4146 FAX : 082-246-1825

編集後記

農業委員の皆様の日 常活動を通じて

本年度、初めての「がんばる農ひろしま・第63号」をお届けします。

去る3月11日発生した東日本震災により、多くの犠牲者や行方不明者を出し、その後の福島原発事故により、今なお多くの方がいつ帰れるかわからない不安な避難生活を余儀なくされておられます。

しかしながら、困窮する国民生活を顧みず、政治は混迷し、東日本大震災対策を最優先するとしながら、復興基本法が成立したものの、有効な復旧・復興対策などを打ち出せずにあります。

政府は大震災を受けて、本年6月としていたTPP交渉参加の是非の判断時期を先送りしていますが、財界やマスコミは参加すべきとの主張を続け、これに呼応するように、一部閣僚が早期判断を示唆するなど、議論の再浮上懸念される状況にあります。

このような状況の中、農業委員の皆様は、市町行政が広域合併を進めるなかで、人数は削減され担当範囲も大きく拡大しましたが、それぞれの担当区域をもっておられます。

農業・農村を取り巻く厳しい環境の中で、将来への不安を抱きながら、現場で頑張っておられる地域住民や農業者にとって、市町行政やJA系統が広域合併を進め少し遠い存在となっている今、農業委員の皆様は、最も身近で頼りになる存在ではなからうかと思えます。

政治が混迷する今だからこそ、農業委員の日常活動を通じて、現場で頑張る人たちの思いを、しっかりと受け止め、政治の場に届けるなど、農業委員としての役割を果たすことで、山積する課題の解決に導くことが期待されております。

農業委員会系統組織として、そのような役割を發揮できるよう、農業委員の皆様方と共に、私共農業会議も取り組んで参りたいと思えます。